

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

研究課題名： 大腸憩室出血に対する治療法別の臨床経過の研究

研究の目的

1 研究の目的

本研究は2012年4月1日から2022年3月31日までに弘前大学附属病院消化器内科において大腸憩室出血と診断された患者さんを対象とします。大腸憩室出血は日常的に遭遇する疾患であり、多くは保存的加療で軽快すると報告されていますが、入院中に再出血を繰り返す症例や、出血のコントロールに難渋する症例、退院後期間をおいて再発する症例が散見されます。ガイドライン上は大腸内視鏡検査が第一選択とされていますが、内視鏡治療後の早期再出血率は26-50%と報告されており、治療に難渋するケースも見られています。血管内治療(IVR)は高い止血効果が報告されていますが、国内からの有用性についての報告は限られています。最難治例には手術が施行されますが、合併症や死亡例が多く、適応は慎重に検討されます。

そこで、当院で大腸憩室出血と診断され、保存的加療、内視鏡治療、IVR、外科手術が施行された患者の治療法毎の再出血率、手技的成功率、追加治療の有無、入院経過、採血データの推移、合併症などの検討を行い、どのような症例にどの治療法が適切か、難治例にどのタイミングでIVRや外科手術への移行が適切かを明らかにすることを目的とします。

研究実施期間： 実施許可日～ 令和 7年 3月 31日

7

2012年4月から2023年3月に当院で大腸憩室出血と診断された患者患者さん。

利用させていただきたい試料・情報について

(他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む)

前述した対象となる患者さんについて、2012年4月から2022年3月31日までの診療情報から以下の観察・検査項目のデータ収集します。

臨床背景因子・臨床検査所見

性別、発症時年齢、受診時年齢、身長、体重、飲酒・喫煙歴、内服、治療方法、入院中再出血の有無、手技的成功率、採血データ、合併症、退院後の再発の有無

臨床経過

当科受診までの経過、診断確定までの経過、治療後の経過

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん/その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先	弘前大学医学部附属病院 消化器内科・血液内科・膠原病内科 助教 澤田 洋平 電話 0172-39-5053 Mail sawada-y@hirosaki-u.ac.jp
-------	---